

★最新介護医療情報★

カクテル療法、自宅投与へ 首相が早期開始見通し

(共同通信社 2021.9.16 配信)

菅義偉首相は15日、**新型コロナウイルス患者の重症化を防ぐ抗体カクテル療法の自宅での投与が可能**になるよう厚生労働省に指示したことを明らかにした。「田村憲久厚労相が早急に取り組んでおり、そんなに時間はかからないと報告を受けている」と述べ、早期に開始できるとの見通しを示した。自宅に医師を派遣する東京都内の医療関連会社を視察後、記者団の質問に答えた。

12日に面会した医療関係者から、コロナの自宅療養者に往診でもカクテル療法を使えるようにしてほしいと要望を受け、すぐに対応したと説明した。「コロナがゼロになることはないので、まずは感染拡大を最小限に収束させ、次に自宅療養者への対応をしっかりと行えるよう取り組む」と語った。

加藤勝信官房長官は記者会見で「投与後に適切な経過措置ができることを確保するための要件などについて厚労省で早急に検討を進め、自宅での往診時における使用の具体化を図っていく」と話した。政府筋は、緊急事態宣言などの地域に限らず全国での活用を念頭に置いているとした。

政府はカクテル療法の使用を当初は入院患者に限定していたが、医師が経過観察することを条件に宿泊療養施設や外来診療でも認めた。

南米由来「ミュー株」、ワクチン効果は7分の1以下…従来株に比べ

(読売新聞社 2021.9.9 配信)

南米・コロンビア由来の変異した新型コロナウイルス「ミュー株」は、ワクチンなどでできた抗体が他の変異株よりも効きにくいとする結果を、東京大や東海大などの研究チームがまとめた。

ミュー株は世界保健機関(WHO)が8月、**警戒度が2番目に高い変異株**に位置づけた。国内では6～7月に空港検疫で2例確認されている。

チームは米ファイザー製ワクチン接種者や従来株に感染経験のある人の血液を使い、様々な変異株に対する抗体の効果を調べた。**その結果、ミュー株に対しては、ワクチン接種者の抗体の効果が従来株より7分の1以下に低下した。**インド由来のデルタ株や南アフリカ由来のベータ株より効果の低下が大きかったという。

チームの佐藤佳・東大准教授(ウイルス学)は「現在、デルタ株が世界で蔓延しているが、**ミュー株に対する監視も重要だ**」と話している。

